

Lutone...

ルトネ
2025
春
No.005



沖縄で生まれた、

沖縄らしい正装

南獄かりゆし

沖縄刑務所編

青い海を望む丘の上で

沖縄本島南部に位置する南城市。

コバルトブルーの海と沖縄で古くから「神の島」として

崇められてきた久高島を望むのどかな丘の上、そこに「沖縄刑務所」がある。

このたび、沖縄県衣類縫製品工業組合から、沖縄で広く愛され、また、政府が進める夏季の軽装でもある「かりゆしウェア」として認定を受けた「南獄かりゆし」の生産を開始したと聞き、同所へと向かった。

建物の一角にある工場に入ると、静まり返った作業場から黙々とミシンを踏む音が聞こえてくる。

慣れた手つきで、一枚の生地から製品のパーツを一つずつ手作業で切り分け、縫製し、アイロンをかけ…。

製品が完成するまでの一連の工程が流れるように行われている。

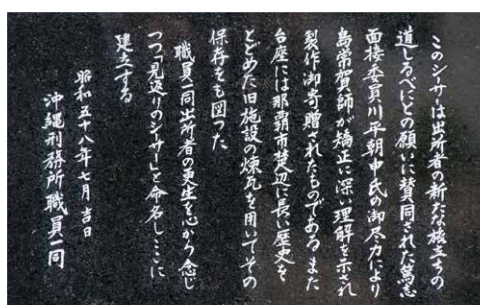
ここで作られた製品を初めて見る人は皆、口を揃えて言う。

「刑務所でこんな技術の高い製品を作っているのか。」



見返りのシーサー

沖縄刑務所の正門で出所者を見送るシーサーには、多くの人の思いが込められている。
(左/シーサーと南獄かりゆし、下/説明書き)



沖縄刑務所

沖縄県南城市にある収容定員452名の刑事施設



沖縄の持つ独自の素材を取り込む

「かりゆしウェア」は、沖縄県では夏の正装として、官公庁だけでなく一般企業でも、暑い夏を快適に過ごすビジネスウェアとして、あらゆるところで着用されています。

「おきなわシャツ」の名称で発売されたのが始まりで、2000年の「九州・沖縄サミット」開催を契機に、沖縄の方言で「めでたいこと」や「縁起の良いこと」を意味する「かりゆし」と名称を統一し、広く着られるようになりました。

「かりゆしウェア」には厳密な基準があります。

① 沖縄県産品であること

生地のカットから製品の仕上げまで、すべて沖縄県内の認定工場で行われていることが条件です。

② 沖縄らしさを表現したものであること

特定のモチーフを指定するのではなく、デザイナーそれぞれの感性で、沖縄らしいと思う動植物や文化などを自由に取り入れることで、毎年新たなデザインが生まれています。

近年では、月桃の茎を使った繊維や、風化サンゴを混ぜた繊維、中身を食用として使用した後の高瀬貝を使ったボタンなど、沖縄の天然素材を使い、環境にも配慮したかりゆしウェアもあるそうです。

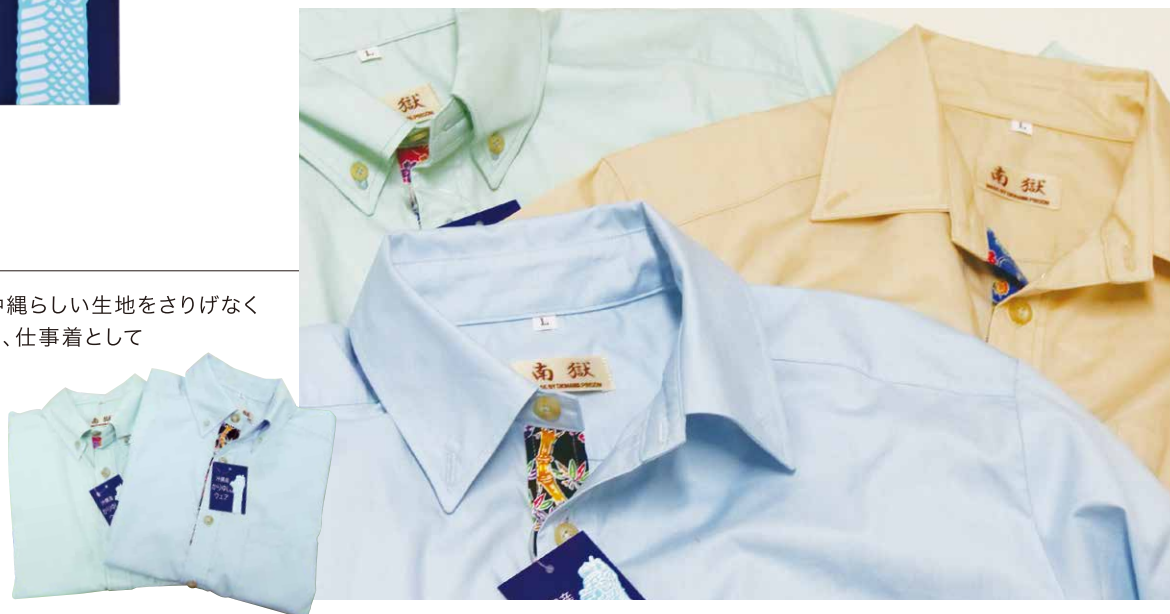
沖縄産かりゆしウェア

沖縄県衣類縫製品工業組合では、年に1回、かりゆしウェアの認定工場を検査し、品質を担保しています。そして、かりゆしウェアとして認定された製品には、種類別に4色のタグが付けられます。沖縄県警の「南獄かりゆし」についているタグは青色。



南獄かりゆし

ボタンの位置に沖縄らしい生地をさりげなく使用しているため、仕事着として取り入れやすいのがうれしい。



変わることはできなくても

一日一日成長していくことはできる

南獄かりゆし製作の経緯

沖縄らしい製品を作ろうと、縫製技術を生かして、南獄アロハを作ったのが始まりです。沖縄各地の矯正展に出品すると、大変好評で、縫製技術の高さが認められ、かりゆしウェアを作ってはどうかとお声をいただきました。

工場では、家庭用のミシンも触ったことすらない作業者に、一から縫製について教え、ひたすら基礎的な縫製を練習させて、ある程度技術が身に着いた者が、やっと南獄かりゆしを製作することができます。



城間作業専門官

平成20年拝命、17年目。印刷、金属、雑工を経て6年前から洋裁を担当。「考えて、気付いて、行動する」がモットー。

かりゆしウェアとして認定を受けることができたのは、令和6年のことです。

作業専門官としてのやりがい

社会では、工場も分業制が多く、当所のように一人で裁断から仕上げまで、すべての工程をできる技術を持つ者はほとんどいません。

かりゆしウェアを縫えるほどの腕をもつ作業者を育てるのはとても大変で、苦勞も多いですが、ここで技術を身に着けて、社会に帰っていくのを見ることは、作業専門官としての喜びでもあります。

受刑者への思い

作業の中で指導するときには必ず「自分で考えて、気付いて、行動すること」を説きます。この考え方は、各自の犯した罪にも通じていると思うからです。

犯罪をした時の気持ちは本人にしか分からないことであり、どこで踏みとどまるかは本人次第です。

刑務作業を通して、自分で考えて、気づいて、踏みとどまる力を付けて、二度と刑務所には戻ってこないでほしいと願っています。

技術を身に着けて更生してほしい

私自身、これまで洋裁に携わった経験はありませんでしたが、洋裁工場を担当することになり、家で実際に練習しているうちに、洋裁への興味が深まりました。

現在、工場の人員の四分の一が、南獄かりゆしと南獄アロハを製作しています。

かりゆしウェアの認可を目指すというとき、製作するには高度な技術が必要ですし、安定した生産力を確保しなければならなかったため、うちの工場で出来るのかと心配でした。

無事に検査に合格して、かりゆしウェアを製作することが認められたときはホッとしました。

南獄かりゆしの製作を始めた頃は、慣れない作業でぎくしゃくしていた受刑者も、徐々に一つのチームとしてまとまってきました。

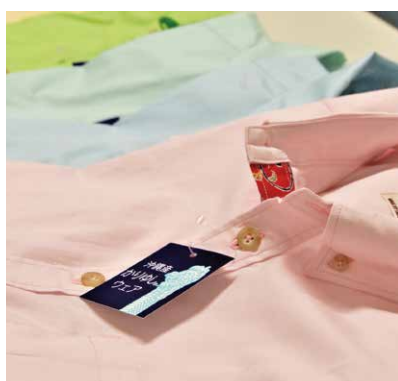


島田副看守長

平成7年拝命。洋裁工場を担当して3年目。「何事も基本に忠実に」がモットー。

作業者個々の技術力の進歩も感じます。

かりゆしウェアは高い品質が求められるので、失敗は必ず報告するよう指導しています。少しのズレでも完成した時には大きなズレとなって品質に影響を及ぼすため、慎重に作業しなければなりません。彼らが集中して作業に取り組んでいる姿を見ると、担当として嬉しく思います。



たくさんの人に着て欲しい。

沖縄刑務所で、南獄かりゆしと南獄アロハの製作に携わって一年になります。

社会では自動車の板金塗装の仕事をしていたので、これまで洋裁の経験がなく、作業に慣れるまでに二、三カ月かかりました。

作業を始めたころは、自分に作れるだろうかと思いがありませんでしたが、作業専門官の先生が、作業方法を丁寧に指導してくださり、元々細かい作業が好きだったのもあって、今では服を作るのが楽しくなりました。

南獄かりゆしは、南獄アロハに比べて、各パーツのサイズが細かく指定されているため、ミリ単位



受刑者Aさん



原反からパーツを型取りしている様子

で調整する必要があります。とても神経を使いますが、ミスをしないよう常に心掛けながら、一枚でも多くの製品を仕上げられるよう工夫して作業しています。

刑務所から出所したら、自分で作ったかりゆしウェアを買って、家族で着てみたいです。

私が犯した罪で周囲に迷惑をかけてしまったことを、とても後悔しています。今後は、失った信用を取り戻すために、自分に出来ることを一つずつ積み重ねて前に進んでいきたいです。

受刑者の思い

社会にいた頃から洋服に興味がありましたが、洋服を作るのは初めてでした。

南獄アロハは柄の入った一枚の生地から作りますが、沖縄刑務所で作っている南獄かりゆしは、無地の生地に柄の入った襟や胸ポケットをアクセントに足していきます。

様々な生地を扱いますが、固い生地より柔らかい生地の方が縫製が難しいですし、胴体の生地に襟を縫い付ける作業は特に難しいと感じます。

私は南獄かりゆしや南獄アロハを製作して8か月になりますが、服を作ることは面白く、出所後も洋服を作ってみたいと思っています。

私が、過去の自分に言えることは一つだけ、「刑務所に来ないよう悪いことはするな」。今は、同じ作業をしている仲間と、日々、より良い製品を届けられるよう頑張っています。

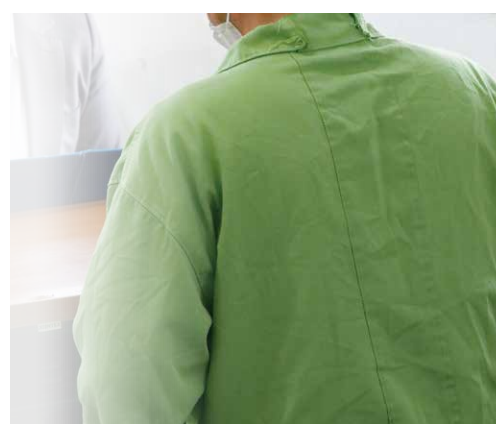
力を合わせて

一所懸命に製品を作っています。



原反をパーツに裁断している様子

受刑者Bさん



沖縄刑務所の南獄かりゆしも南獄アロハも、私たちが一つひとつ丁寧に作っています。ぜひ多くの方に着ていただきたいです。

『一旦身に着けた技術は、一生もの。』



沖縄県衣類縫製品工業組合

沖縄 刑務所で製作された製品を見せていただいた第一印象は、とても丁寧で作られているなということでした。

通常は生産性が求められますが、刑務所では数量を上げることが目的としていないため、一枚一枚きっちりで作られており、裾の処理も綺麗で、集中して、根気強く縫製作業に当たられているのがよく分かります。

これまで洋裁をされていない方が、技術を習得して、その技術を人に教え

るということは、とても難しいことです。刑務所の職員さんが、受刑者の方に指導されていると聞いて、大変驚きました。

縫製の技術というものは、個人に帰属するものですから、一度身につけてしまえば、あとは、ミシンがあって、製品としてきっちりとしたものが出来れば、誰でもできます。

したがって、刑務所で技術を身につけて刑期を終えた後、現金収入を得る手段として、縫製は、社会復帰にとっても向いている作業だと思います。

現在、縫製業界でも担い手不足が深刻な課題です。縫製の技術を持った人は、探してもなかなか見つかりませんし、一週間訓練したからといって身につく技術でもありません。

ぜひ、かりゆしウェアを作る中で身につけた技術を、何らかの形で生かしていただきたいと思います。

今の時代は個人で販売することもできますので、刑務所で身に付けた技術が無駄にすることなく、今後の社会復帰につなげてほしいですね。

技術を無駄にすることなく

社会復帰につなげてほしい。



沖縄県衣類縫製品工業組合 事務局長 美濃さん



矯正展・即売会以外でも

お求めいただけます。

・ 社会とのつながり ・

コロナ禍、沖縄刑務所の方から、矯正展が開催できず、刑務所作業製品を販売する場所を探していると聞き、ちょうど物産館でも、地域のローカルなものを推していきたいと考えていたことから、刑務所作業製品を販売する常設コーナーを作りました。



一般社団法人 南城市物産館 マネージャー 宮里さん



物産館は、普段は観光客も多いのですが、土日は地元の方も多く訪れます。南獄アロハも置かせていただいています。刑務所作業製品はクオリティが高く、また、価格も安いいため、お客様にも大変好評です。

南獄アロハや革製品など、どれも非常に高い技術で作られていると思います。

せっかく同じ南城市にありますし、良いものを作っているから、刑務所作業製品の販売は継続していきたいですね。

受刑者の方には、素敵なものを作っていることを誇らしく思ってほしいし、刑務所で培った技術を出所後に何らかの形で生かしてほしいと思います。

物作りは苦ではなく面白いものと

思っ更生につなげてほしい。



お問合せ先

沖縄刑務所

沖縄県南城市知念字具志堅330

TEL:098-948-1653(作業担当直通)



物産館では、刑務所作業製品を常設展示販売していますのでいつでもお買い求めいただけます。

沖縄県南城市知念字久手堅539



Lutone...

2025・Spring
No.005

ルトネ 春号

－ 取材協力 －

沖縄刑務所

－ 取材先 －

沖縄刑務所

* 沖縄県衣類縫製品工業組合

* 一般社団法人南城市観光協会

－ 企画・取材・編集 －

福岡矯正管区成人矯正第二課

沖縄刑務所

－ 発行 －

福岡矯正管区

〒813-0036

福岡県福岡市東区若宮5-3-53

TEL:092-661-1138(直通)